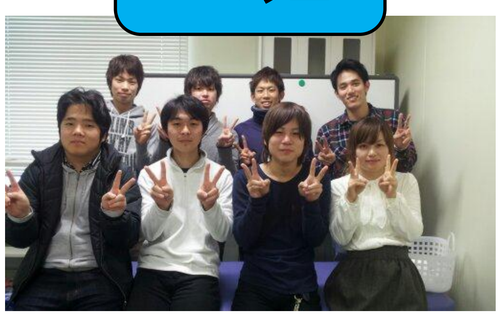
医療職の連携によるチーム医療の理解

２班



2. 有馬　17. 牛飼
32. 楠元　47. 田方
74. 堀之内 75. 前田
89. 安武　107.脇田

1.⇒各医療専門職の医療・保健・福祉における役割
2.⇒各医療専門職間の連携において目的とすべきこと
3.⇒各医療専門職のチーム医療における現状での問題点

学内・学外実習での訪問先

老人保健施設愛と結の街
特別養護老人ホーム清谿園
生協訪問介護ステーションかもいけ
大勝病院
やまびこ医療福祉センター
訪問看護ステーションみなみ風
今村病院 分院
鹿児島大学附属病院 看護部・薬剤部・検査部

看護師

1. 事務的手続きと日常的医療幇助
入退院時の事務手続きや、入院患者の看護記録の管理といったことから、点滴、配薬、清拭、尿検査、血圧測定、治療のための搬送などを日常業務とし、患者に一番身近な存在として、医療との架け橋となる。

2. 適切な医療提供
患者が無理なく、安全に治療できるように、医療従事者全体で患者にあった医療を提供する(日常生活のサポートも含める)

3. 限定的な権限と、業務の負担
医療過誤防止のため、ダブルチェックが義務とされているが、医師とのダブルチェックでは、医師のスケジュールに左右されるため時間的に拘束され、看護師間でのダブルチェックは、看護師の人数が限られている上、みんな多忙であるため、大きな負担となっている。
→医療過誤予防のためのシステムが、医療現場の状況にあっていない。

作業療法士・理学療法士・言語聴覚士

1. 身体機能の維持および向上
患者の現在の機能を維持するための補助を行う。
患者が実生活に戻る上で障害となっているものを、リハビリテーションを通して緩和する。
(筋のマッサージや軽い筋力トレーニング、対話による言語機能の強化や手を使った作業)

2. 共通の目標へのアプローチ
患者のQOL向上のため、それぞれで長期的・短期的目標を設定し、各療法士で有する情報を全体で共有化することで、チーム全体で患者の治療に当たる。

3. 人数不足と限定的な医療提供期間
リハビリは365日提供することが重要である上、患者と1対1で行う必要があるが、現状として患者数にあった人数が確保できていない。
また、1人の患者にリハビリを提供できる期間が決まっているため、患者の状態が完全によくならなくても、治療をやめざるをえない。

検査部

1. 患者から採取した血液の検査
・血液検査や顕微鏡による検査を行う
2. 患者の利益のために
・検体の取り違えなく正確に検査を行い、結果を返すことで診療に役立てる。
3. コスト
取り違えを防ぐシステムの構築にはお金がかかる。

患者

訪問看護ステーション

1. 在宅療養者に対する看護
訪問看護とは、看護が必要な在宅の療養者にたいして、看護師や保健師が日常生活の看護を行うこと。

2. 医療処置や服薬管理の確認
医療処置や服薬管理の確認を、訪問看護指示書を通してだけでなく、医師も定期的に直接行う。

3. 問題点
異常（普段と違う点）があった時でも、自分で判断しなければならない。

薬剤師

1.調剤・服薬指導・薬剤管理・情報提供

2.医療安全の確保
複数で確認・データ保存
医師・看護師の業務負担軽減
製薬・薬剤の管理

3.疑義照会
医師への処方内容の確認
規制が多い
→薬剤師に出来ることを増やす
処方の判断・一包化など

特別養護老人ホーム

1. 老人の常時介護
認知症など心身の障害が進み、在宅医療が困難な老人の介護をする。
2. 入居者の健康維持
入居している老人の健康維持を目的とし、嘱託医・看護師が存在する。
入居者のかかりつけ病院との連携を行っている。
3. 倫理的問題・コスト問題
特老は入居者の家庭への復帰を目的としていないところが多い。
医療施設としての倫理的問題が生じている。
また、入居者よりスタッフのほうが多い施設もあり、コストがかかりすぎていると思われる。

老人保健施設

1、病院と自宅の中間施設
障害を持った高齢の患者が自宅に戻って安全に生活できるようにする
2、患者の障害やライフスタイルはさまざま
生活指導が中心になるため、医師は診断結果、個人のライフスタイルに合わせたリハビリプログラムを作る。
3、・在宅介護に戻ったが、介護もつらさに耐えられず施設に戻してしまう
→在宅介護体絹布rグラムの活用や、施設からの支援を充実させる。
・施設数が少ないため、丹生伽町の患者が多く存在する
→介護保険制度の改善、人材の確保

医学生としてチーム医療を推進するために

勉強する。　医学そのものはもちろん、チーム医療の中での医師の役割を理解し、自覚する。
また、学生のうちから医療に関わる他の専門職についての知識を得、その役割を理解する。

尊重する。　他の医療専門職に対して尊重する心を育てる。医師が絶対的中心、ではなく、チーム全体で協力し合って患者の治療と社会復帰のために全力を尽くす心構えを持つ。

人脈を広げる。　様々な人と出会い、様々な経験を積む。将来医療に関わる仕事の上で行き詰まった時、助け合えるような人間関係を築く。

コミュニケーション能力。　患者や他の医療従事者の意見をくみ取り、自分の意見も正確に伝え、議論できるように、コミュニケーション能力の向上を図る。